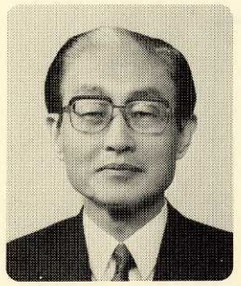
ご　挨　拶



財団法人　成長科学協会
理事長　鎮目　和夫

当協会では、設立当初(昭和52年)から子どもの身体の成長の促進を主たる目的として事業を行なって参りました。しかし、背が伸びても心の発達がそれに伴わなければならないということから、平成4年協会内に、心の発達研究委員会を設置し研究集会を行なうと共に、一般公開のシンポジウムもこれまで9回行なって参りました。8回とも現代の子どもの心の生態とその発達の問題がテーマでした。

ところで我が国では世界に類をみないスピードで高齢化社会に向けて進行しております。前回は生きもの総てが宿命といえる「加齢現象」に目を向けて、「成長期からいかに対処すべきか」を考えました。

今回は、前回のシンポジウムからまた一歩踏み込んで、各方面でご活躍をしておられる方々と楽しく生きるために考えてみたいと思います。

心の発達研究委員会
委員長　岡　　宏子

心の発達研究委員会は、子どもたちが健やかに、ひととしての可能性を充分に展開して成長することを願って発足、その活動を続けております。公開シンポジウムもこの活動の柱、これまで父親、働く母親、子どもの発達の現状の問題点、食生活、ニューメディアの中で育つこと…と、現代社会に育つ子どもの発達を考えてきました。前回はひとのライフ・スパンの後期、成熟後の生き方の問題に焦点を移して、そこから「心の発達とひとであることの意味」を考えてみましたが、この時の議論をふまえて、人生の後期をどうしたら生き生きと活動出来るかを考えてみたいと思います。

開催にあたって

老年への挑戦Ⅱ　－ひとはいつでも花開く－

ひとは何才から「老年」なのか?の議論はさておき、人間という生きものが、その成熟期をすぎてからも、どの程度、どのくらい、また、どのようにして、生きものの宿命といえる「加齢現象」に挑むことができるのだろうか。このような問いを投げかけていろいろな角度から考えてみようというのが、このシンポジウムの出発点である。

勿論、ひとも生きものである限り、生後は「加齢現象」の線上を生きていくことは免れられないのは当然である。しかし、系統発生的な発達の線上、独特な位置にあるひとであるということは、この成熟以後の加齢現象ー つまりは老化が問題となる時期に、どの程度、どんなふうにして、どの位のあいだ、生き生きと活力にみちた生き方を繰り広げることを可能にするのであろうか。

このような主旨で前回は、現代社会に生きるひとびとに、ずしりと重い問題をなげかけている「高齢化社会の問題」を「心の発達」のサイドから取り上げてみました。

この折りの議論は、ご参集の方々の共感を生んで「この問題をさらに堀り下げて」のご要望を沢山頂きました。そこで今回も「老年期に挑むⅡ」と銘打って、前回御発言の先生方を中心に、新たに長谷川和夫先生のご提言をいただき、「どうしたら老年期を生き生きと展開させる事が出来るのか」また「人はいつでも花開く」と言うが、それにはどんなきっかけが、心の転機があってのことなのか、を含めて突っ込んだ討論を行い、皆様方の生き生きとした人生の後期へのご参考にして頂きたいと思う。

心の発達研究委員会　委員長　岡　宏子（大学セミナー・ハウス館長、聖心女子大名誉教授）
委　員　東　　洋（白百合女子大児童文化学科長、東大名誉教授）
〃　小林　登（甲南女子大学教授、国立小児病院名誉院長）
〃　原ひろ子（お茶の水女子大女性文化研究センター教授）
〃　大野澄子（日赤医療センター）
〃　丹羽洋子（育児文化研究所長）
〃　森　玲子（東京都立川高等保育学院）

プログラム

テーマ：　老年への挑戦 II
－ひとはいつでも花開く－

司会　岡　宏子

13：00～	開会　あいさつ	鎮目和夫
	プレゼンテーション	岡　宏子
	演者からの提言	秋山　仁
		森　茂
		長谷川 和夫
	休　憩	
	ディスカッション　質疑応答	
	ま と め	岡　宏子
～16：30		

演者紹介

岡　宏子（おか　ひろこ）〈司会〉

（財）大学セミナー・ハウス館長。聖心女子大学名誉教授。
専門は発達心理学。「心の発達」をとらえる視点の広さと分析の明確さには定評があり、その明快でわかり易い話にファン層が厚い。当研究委員会委員長。

秋山　仁（あきやま　じん）

理学博士。東海大学教育研究所教授。
上智大学大学院数学科卒業後ミシガン大学数学研究員、日本医科大学助教授、東京理科大学教授を経て現職。アメリカ等数十の大学で離散数学の旗手として教壇に立つかたわら、数学的発想力を育ませるため、NHK、民放を通じ多くの数学啓蒙番組を担当。数学に関する専門書多数。

森　茂（もり　しげる）

東京商科大学卒。（社）日本交通協会副会長。（財）多摩市福祉サービス公社副理事長。元国鉄天王寺鉄道管理局長、元京王帝都電鉄専務、元京王百貨店社長・会長を歴任。「男の冬じたく」「七十歳男の出番」等の著者。

長谷川和夫（はせがわ　かずお）

聖マリアンナ医科大学学長。
東京慈恵会医科大学卒、同医科大学精神神経科助教授、東京都老人総合研究所心理精神医学部長、聖マリアンナ医科大学神経精神科教授を経て現職。
長谷川式簡易知能評価スケール開発者。